

2025 年 10 月 23 日

高市早苗新内閣発足にあたって

日本製薬団体連合会
会長 安川 健司

高市内閣が発足し、自由民主党と日本維新の会による連立政権が誕生しました。日本が直面する物価高、社会保障の持続可能性、人口減少など、生活に直結する重要課題に対し、生活の安定と経済成長を両立させる力強く果断な政権運営が行われることを強く期待いたします。

製薬産業は、高市総理が重視する「科学技術立国」および「危機管理・安全保障」の実現を担う重要な産業であり、我々は最先端の科学技術によるイノベーション創出を通じて革新的な新薬を開発し、高品質かつ安定した医薬品供給を確保することで国民の健康と日本経済の発展に貢献してまいります。

現在、多くの要因が複合的に絡み合った結果、社会保障制度は持続性が危ぶまれており、製薬産業は大変厳しい状況におかれています。政府は長年、社会保障費の伸びを高齢化の範囲内に抑える方針を取り、その主な手段として薬価引き下げを行ってきましたが、これは縮小均衡に過ぎず、根本的な解決にはなっていません。結果として、日本の創薬力低下や安定供給の危機を招いています。デフレからインフレへの急激な経済環境変化を踏まえ、物価や賃金上昇の影響を薬価への的確に反映する仕組みを確立することが急務です。また、海外情勢をみると、世界的に保護主義が台頭する時代を迎えており、医薬品の国内生産体制の再構築を含むサプライチェーンの強靱化などの安全保障政策が必要です。

新政権には、これらの状況を踏まえたうえで、現役世代の過度な負担増を抑えつつ、持続可能な社会保障制度の構築に向けた抜本的な見直しとともに、製薬産業を国の基幹産業として位置づけ、研究開発投資を一層促進する政策を着実に実行いただくことを切に期待いたします。

新内閣におかれましては、製薬産業に対する一層のご理解と官民一体となった政策実現の推進にご支援をお願い申し上げます。

以上